

受賞者のご挨拶

株式会社 蔭山工務店

代表取締役 蔭山 寿一様



このたびは、秋田経済研究所様より「2025年度中小企業振興表彰」という大変栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃よりご支援をいただいております秋田銀行様をはじめ、お取引先の皆様、地域の皆様、そして共に歩んできた社員・協力会社の皆様に、心より感謝申し上げます。本日の受賞は、私個人への評価ではなく、創業以来75年以上にわたり、地域に根ざして仕事を続けてきた蔭山工務店と、その歴史を支えてくださった多くの皆様への評価であると受け止めております。

本日は、この機会をお借りしまして、当社の歩みと、秋田銀行様とのご縁について少しお話しさせていただきたいと思います。

当社の創業は昭和25年です。創業者である父・蔭山藤寿は、日本大学工学部の前身である日本大学専門部工科の郡山移転にともなう工事に携わったことをきっかけに独立し、蔭山工務店を創業いたしました。

実は、その日本大学誘致の際、唯一資金援助を行った金融機関が秋田銀行様であったと聞いております。秋田銀行郡山支店は昭和6年に開設され、その後の地域発展を支えてこられました。私も蔭山工務店は、日本大学工学部の建設事業を通じて秋田銀行様とのお付き合いが始まり、それ以来75年近くにわたり、ご支援をいただいております。

こうして考えますと、本日の受賞は単なる表



彰ではなく、長い歴史の中で築かれてきたご縁の延長線上にあるものだと感じております。改めて、秋田銀行様、そして秋田経済研究所様とのご縁に深く感謝申し上げます。

私は昭和55年に大学を卒業した後、首都圏の建設会社に入社し、現場監督として建築の世界に入りました。昭和58年に郡山市に戻り蔭山工務店に入社、以来50年近く、建築一筋で歩んでまいりました。

私が入社した頃は、高度経済成長の余韻が残る時代でした。建設業界は「いかに多く造るか」が求められた時代でしたが、現在は人口減少や少子高齢化が進み、「いかに価値を高めるか」が求められる時代へと変わりました。

さらに近年では、地球温暖化への対応や脱炭素社会の実現、自然災害への備えなど、建設業に期待される役割も大きく変化しています。その中で私たちは、「地域に必要とされる会社であり続けるにはどうすればよいか」を常に考え

てまいりました。

その答えの一つが、「木を活かしたまちづくり」であります。

グループ会社の藤寿産業、ウッドコアでは、福島県産材を活用した大断面集成材や耐火集成材の製造に取り組み、中大規模木造建築の普及を進めています。藤寿産業が集成材に取り組みうとしたとき、またお世話になりましたのが秋田銀行様です。能代市の木材工業団地の企業様をご紹介いただき、工場の見学、集成材の勉強をさせていただきました。その時の能代の皆様のご指導があつて初めて、今の私どもの取り組みがあります。改めて御礼を申しあげます。

木を使うことは、単に建物を造ることではありません。森林を守り、林業を支え、地域経済を循環させ、さらには脱炭素社会の実現にもつながります。

私は、木材利用の推進こそが地方創生の重要な鍵の一つであると考えています。また、再生可能エネルギーを活用したZEBやZEH(※)など、省エネルギー建築にも積極的に取り組み、次の世代により良い環境を引き継ぐことを目指しております。

(※) net Zero Energy Building/House。省エネルギー化や自家発電設備の設置などを通じ、エネルギーの消費量をゼロにすることを目指した建築物

さらに私は、企業経営だけでなく、建築士会活動にも長年携わっております。現在は公益社団法人福島県建築士会副会長を務めさせていただいておりますが、建築士会では災害時の住宅被害調査、歴史的建造物の保存活用、子どもたちへの建築教育、まちづくり活動など、さまざまな社会貢献活動を行っています。東日本大震

災では、私たち建築に携わる者が果たすべき責任の大きさを痛感しました。

建築は単なる建物ではありません。人の命を守り、家族の暮らしを守り、地域の未来を守る仕事です。だからこそ、私たちは技術だけでなく、人づくりや地域づくりにも力を注いでいかなければならないと考えております。

近年、建設業界は担い手不足や資材価格高騰など、多くの課題に直面しています。しかし私は、建設業は今でも夢のある仕事だと思っています。一本の木が建物となり、人が集まり、まちが生まれ、その建物が何十年にもわたり地域を支えていく。そこには、人の想いと技術、そして地域への誇りがあります。だからこそ、若い世代にこの仕事の魅力を伝え、次の時代を担う人材を育てていくことも私たちの使命だと思っています。

今回の受賞を励みに、これからも地域社会への感謝を忘れることなく、建築を通じて地域の発展に貢献し、中小企業として挑戦を続けてまいります。

最後になりますが、本表彰を主催されました秋田経済研究所の皆様、選考に携わられた皆様に改めて御礼申しあげますとともに、ご臨席の皆様のみすますのご健勝とご発展を心より祈念申しあげまして、受賞の御礼の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。